J@FIOSAKA

Vol. 49

令和 5年 春号

2023 (令和5年) 2月1日発行

発行者: 大阪府釣りインストラクター連絡機構 本部: 〒544-0013 大阪市生野区巽中4-19-19 tel 06-6364-4156 (編集責任者: 広報部 田隅)

2025年大阪万博開催に向けて

新年おけましておめでとうございます。

今年は久しぶりにフィッシングショーがインテックス大阪で開催されることに大変喜んでおります。やはり釣り好きには、各社の新製品を触れたりイベントに参加したりは大変な魅力なんですね。成功を祈念しております。さて、沖堤防から転落した釣り人が亡くなられて数年たちます。当時、來田前代表が先頭に立たれ業界も一丸となって「釣りを禁止としないエリア」が設定されました。それに伴い大阪市港湾局、全釣り協、日釣振大阪府支部、大釣り協、市内の渡船業者等で3か月に一度「大阪湾釣り関係者会議」が行われています。昨年12月の会議には2025年大阪万博の博覧会協会と市の役人が参加され、安

大阪府釣りインストラクター連絡機構代表

绵井良隆

全上の理由から、万博期間中の港湾部 の立ち入り禁止についての説明をされ



たのです。海外からの首脳もお越しになるので仕方のないことではありますが、ただ営業している渡船業者にとっては死活問題にもなります。「規制期間中は警戒船などで仕事を作り、閉会後には再び渡船業を復活してもらうようにしていただかないと、貴重な市民の遊び場が無くなってしまうので善処してほしい」旨の発言をしておきました。 港湾の安全の話題は今年から来年にかけて活発になってきますので、地元で活躍しているJOFI大阪からの委員も派遣できればと考えています。

我が国の海、川、湖における魚をはじめとする水生生物の環境は悪化をたどり、生息数は減少の一途です。 魚がいなければ、釣りという「遊び」は成立しません。

わたしたち大阪府釣りインストラクター連絡機構(JOFI大阪)は、そうした環境の劣化に歯止めをかけ、あるいは可能な限り回復をはかるためのボランティア活動をおこなっています。

さらに、釣りという「遊び」あるいは別の角度からいえば「エコロジカルスポーツ」を志す会員一同は、水辺の自然環境と最も密接な間柄にある市民として、釣り技術はもとより、釣りを通じて「これからの社会に貢献できる"ゆとりごころ"の確立と、釣り人の社会的な認知」を願っています。



〈〈大阪府釣りインストラクター連絡機構(JOFI大阪)の主な事業〉〉

- <1>釣り文化の伝承、伝達、普及および文化としての釣りの振興に寄与する
- <2>釣り場環境の維持改善に積極的に寄与する
- <3>エコロジカルスポーツとしてのマナーを周知させる
- <4>釣りを通じて青少年の健全育成に資する
- <5>釣り教室の開催運営、講師派遣、環境保全回復活動等、釣りに関連する有償、無償の ボランティア活動を掌握し、推進する
- <6>これらの事業遂行のため、各種の調査受託、広報活動等を実施する

JOFI大阪が取り込むSDG s



目標12: 作る責任つかう責任

「商品を選ぶことで消費者としての責任、買い物をするときに、環境によい方法や人権に配慮された製品を積極的に選んでそれをつくった企業を応援します。



目標14: 海の豊かさを守ろう

「海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保 全し持続可能な形で利用します。



目標15:陸の豊かさも守ろう

「陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地の劣化の阻止・回復および逆転、ならびに生物多様性の損失を阻止を図ります。





http://jofi-osaka.com

一令和4年度の活動紹介



淡輪漁港の水中清掃に参加(R4-5/14)

前日まで降り続いた雨も上がり、曇り空ですが心地よ い気候となった「淡輪漁港水中清掃」にJOFI大阪からイ ンストラクター4名が参加しました。

昨日までの雨量の割には海の濁りもなく、水中作業の 視界も良さそうでしたが、港内に海藻が多く、少し水中 清掃作業には邪魔だったようです(魚介類の生息環境と しては良さそうですが)。

定刻の午前10時開会式がスタート。主催者の日本釣振 興会大阪府支部・橋本支部長の挨拶、釣り番組などで活 躍中のタレントの高本采美さんの紹介などの後、10名の ダイバーによる水中清掃の始まり。

私たちを含む陸上サポート19名は2班に分かれ、ダイ バーが回収した海中のゴミを引き揚げる作業を担当。中 にはタイヤや水を吸った大きなマット(カーペット)類、 護岸から脱落した防舷材など非常に重いものもあり、引 き揚げにひと苦労する場面もありました。

1時間の水中清掃で回収された中で目立ったのはやはり、

ペットボトルや空き缶類でしたが、意外に少ない状況。 ゴミの総重量は約140kg。 釣り人の多い波止のまわりを 水中清掃すれば、ゴミの内容も釣り人によるものが多く なる可能性もあり、興味深いところですが、釣り人の目 の前を水中清掃するわけにもいきません。

辻会員が漁港内のゴミ拾いをおこない、空き缶やペッ トボトル、タバコの吸い殻などを回収しました。

これからも、こういった機会があれば参加協力し、釣り 人の立場からゴミ問題を考えるとともに、未来に釣り場 を残すための手助けになるような活動を続けたいと思い

ます。(報告:室井)







報告 2 『大阪湾クリーン作戦』に参加(R4-6/5)

今年もヤッパリゴミは放されていました

舞洲大橋釣り場解放区の清掃『大阪湾クリーン作戦』 今回もJOFI大阪の担当場所は、昨年と同じ場所、北港舞 洲の夢舞大橋下付近を担当。インストラクター5名で参 加。昨年は大量のゴミがありましたが、今年は昨年に比 べ釣り人のゴミに対する意識が少しは高まっていること を期待し集合場所へ。

開会式では、主催の日本釣振興会大阪府支部橋本支部 長の挨拶の後、ゴミ袋、軍手やトングを持ってゴミ収集 の開始、釣り場後方の草むらにはペットボトルや空き缶 がちらほら。一方駐車場入り口、自動販売機横には悪臭 を漂わせている大量のゴミ、清掃に参加している家

れの子供達4名を含む協力者50名以 上が協力し、10時過ぎに釣り場のゴ

ミの回収が終了。 その後、集合写 真を撮影し解散 しました。

(報告 田隅)





第41回を迎えた 大阪湾稚魚放流事業に参加(R4-8/25)

日本釣振興会大阪府支部主催の大阪湾稚魚放流に、イ ンストラクター4名が参加協力しました。このイベント は、大阪湾に「チヌの海を再生したい」と1983年から、 全国に先駆け実施。毎年JOFI大阪も参加協力しています。 今年は、コロナ感染拡大で参加人数を制限。

今年の放流はチヌ8,000尾(8月9日放流済み)、当日はメ バル7,000尾、キジバタ(アコウ)5,000尾です。チヌはア 一マリン近大(近畿大学のベンチャー企業)で、キジハタ は昨年と同じ(公財)大阪府漁業振興基金栽培時事業場、 メバルも瀬戸活魚センターから稚魚の提供を受けて実施。 キジハタとメバルの稚魚は、125%前後の大きさでバケツ リレーだけではなくプラスチック製の箱に入れて移動。

報道機関の写真撮影のため、一隻は常吉大橋の近くの場 所で放流を行い、他船はそれぞれの場所へ移動。放流後、 参加者全員で常吉大橋付近の釣り場を清掃。この場所は、 釣りの人気スポットで、特に太刀魚が釣れる時期になる と、多くの釣り人で賑わいます。

毎年のことですが、釣り人の捨てたペットボトルやマキ エのナイロン袋ゴミもありますが、家庭生活用品や雑誌

等も多く回収されました。 (報告 物部)









寝屋川市スポーツ少年団親子ふれあい釣り教室(R4-9/10)



寝屋川市スポーツ少年団親子ふれあい釣り教室、事前打ち合わせの会議では、昨年はコロナ関係で3回も延期した経緯があったので、今年も同様の事態が無いようにとの話題が集中。開催当日は9月初旬とは思えない晴天で暑い一日となりました。参加者は昨年の夢もう一度と元気いっぱい。集合場所の市役所へ時間前に全員集合し、マイクロバスに乗り込み大阪南港魚釣り園護岸へ。

9時前に到着、安全に釣りをするため、恒例のすきすきフィッシングの教材を使用した釣り教室。終了後自分自身を守るライフジャケットを着用し釣り場所へ移動。インストラクターが竿や仕掛けの準備が遅れ、参加者は少し不満顔でしたが釣り開始一投目から25~前後のサバが釣れだし、強い引きに子供達や保護者は、サバと大格

闘の始まり。笑顔がこぼれ大歓声。昼食時になりましたが、釣りを続けている子供も多く、魚をこんなに釣って帰ってから大変と言いながら、保護者の方も釣りを満喫されていました。持ち込んだ大型のクラーボックスが満タンになるほどの爆釣で予定より1時間早めに釣り教室を終了。最後に全員から「おっちゃん有難う。来年も宜しくお願いします。」との言葉に疲れも少なくなり帰路

へ。(報告 川嶋)





報告 5

【近木川親子ハゼ釣り教室開催に協力】(R4-9/11)

大阪府貝塚市の近木川河口で、親子ハゼ釣り教室を日本釣振興会大阪府支部の主催で開催しました。

当日は9月にもかかわらず気温が高く、好天の中30名の参加者、インストラクター、貝塚市立自然遊学館、㈱ライフサポート関西、干潟を守る会の総勢43名で行われました。開会式で主催者挨拶、続いて室井インストラクターによる「危険な魚」や「釣れた魚の対処方法」等について説明、ライフジャケツト着用の後、全員で周辺の放置ゴミの回収を実施しましたが、潮回りの影響かゴミは少なかったようです。各班分けで担当インストラクターが釣り方を指導し釣り開始です。実釣では安全確認後、インストラクターの引率で中央砂洲に移動した方もおられましたが、フグの猛攻でハリス切れが多数発生しました。

熱中症に注意しつつ、夏雲沸き立つ11時前に終了となり ました。

釣り終了後、貝塚市立自然遊学館山田先生から、釣れた 魚や生き物などの説明がありました。

スズキ・チヌの幼魚やコトヒキも見られましたが、クサ フグが多いようでした。

また、ケフサイソガニやヤドカリを子供達と一緒に採取

された方もおられました。肝心のハゼは少なかったものの、子供達も魚信を確かめられ笑顔溢れる秋の一日でした。(報告 小川)



報告 6

秋の岬町観光協会釣り教室(R4-9/25)

進学塾の自然学習プログラムの一環として実施された「釣り体験教室」。懸念材料だった台風も前日に近畿圏を通過し、当日は快晴。9月終盤とは思えないほど、気温も上昇、釣りの安全に加え、熱中症にも気をつけなければならない1日となりました。

参加者は、塾生(小・中学生)47名。塾スタッフ6名。一般参加として2家族9名の大所帯に対して、釣りインストラクターは12名。安全を確保したうえで、できるだけ効率よく指導ができるよう、参加者を6班に分けておこないました。実際、釣りをしてみると、塾生の中には釣りに親しんでいる子もおり、その子が班の中で年少の塾生たちの面倒を見てくれるようなこともあり、大変助かりました。開会式、安全講習、危険な魚講習の後、9:00~11:00までのサビキ釣りは、前半好調。日が高くなった後半はやや苦戦。全体を通して、爆釣とまではいかないものの、アジ、サバを中心に、全員が楽しめる程度に釣れました。ほかにも、木っ葉グレやチャリコ、ガシラ

などが混じり、色々な魚を実際に触れてもらう良い機会になったのではないでしょうか。また、温暖化の影響なのか、バリコの率も昔に比べて高くなっており、危険な魚を実際に見てもらえたのも良かったかと思います。

安全面に関して、実動中はライフジャケットを必ず着用。 岸壁際に不用意に立たないなどの徹底で、大きな事故は ありませんでしたが、針数の多いサビキ仕掛けについて は考える余地があるかと思います。今回も、私の知る限 り、3名が指や足に針をかけてしまい、カットバンで処 置が必要となりました(大事には至りませんでしたが)。

(報告:室井)





毎年秋に開催し、平成の時代からから10数回続いてい る釣り教室、残念なことに新型コロナウイルスの流行に よりこの2年間開催を見合わせましたが、密集場所での マスク着用以外の規制が解除となり、待ちにまった釣り 教室の開催です。今回の釣り教室参加者は小中学生16名 と引率者6名の総勢22名。

開会式では主催者の日本釣振興会大阪府支部 橋本支 部長より開催の挨拶。座学では、インストラクターから 釣りのマナー、危険な魚等の解説。その後、参加者全員 がライフジャケットを着用し釣り場へ移動。

サビキ釣りを経験したことのある子供たちが多いのか、 手慣れた様子でカゴにエサのアミエビを入れ釣りを始め

る。釣りが初めての子供にはインストラクターがマンツー マンで竿の持ち方からリールの扱い、エサを入れて海へ の投入までをレクチャー。

昼に近い時間と大和川尻と言うことであまり釣果は期待 できないと思っていたが、子供たちが釣りを飽きない程 度に小鯖やアジ、この時期サビキでは釣れないはずのカ ワハギがつれるなど、適度な釣果で子供達も釣りを楽し めた釣り教室となりました。 (報告 田隅)







令和4年度水中清掃「二色浜公園貝塚人工島」(R4-10/15)

日本釣り振興会大阪府支部が定期的に主催している水 中清掃が貝塚人工島南端沖向きの通称「プール」で開催 され、JOFI大阪のインストラクター3名が参加。

現地に9:00集合。10:00から水中清掃の予定ですがそれ までの間、陸上のゴミ拾いをおこないました。ゴミでと りわけ目立ったのが、空き缶やペットボトル、アミエビ の袋、コンビニ弁当などが詰めこまれたビニール袋。そ れが一か所にまとめて山積みになっていました。ほとん ど釣り人が出したゴミと思われ、本当に各自で持ち帰っ てほしいところです。そのほか、テトラポット周りには、 ペットボトルを中心にとてもではないけれども拾いきれ ないゴミが散らばっている状況でした。

朝から釣りをしている人たちに「水中清掃の実施」を呼 びかけ、場所を開けてもらい10:00過ぎからダイバーが 水中へ。海中は白濁りがきついようで、視界があまり効 かず、手探りのゴミ回収となり、効率がなかなか上が

らないようでした。それでも最終的には、総計30kgを超 えるゴミが海中から回収されました。ゴミの内訳は、竿 21本、リール8個、水汲みバケツ21個、アミカゴ83個、 ルアー類46個、オモリ類28個、餌木29個、ハゲカケ針3 個、浮き10個、椅子1脚、ケータイ電話1個。そのほか、 釣り糸も多数。総重量は34kgでした。

今回は、釣り人が絶えないエリアでの清掃でしたので、 釣具が多く回収されました。いつでも気持ちよく釣りが できる環境と、いつまでも釣りができる釣り場を守るた めには、やはり、ゴミに対する意識をもっと高めなけれ

ばならないと痛感させられる 一日となり

ました。

(報告





ひらかた第3団カブスカウト隊釣り教室(R4-10/15)

大阪南港魚釣り園護岸で、スカウトとスタッフを含め16 名の参加者とインストラクター5名で開催。釣り教室が 安全に開催出来るよう小川インストラクターにより、釣 りのルールマナー、釣り公園で最近よく釣れる危険な魚 の魚種の説明と取り扱い方法等を指導し、ライフジャケ ツト着用を確認し釣り場へ移動。

先日からのブリやメジロなどの青物フィーバーで釣り客 の來園が多く、釣り座が無かったので二か所に分かれ、 実釣開始しました。30分を経過したころ一方の釣り座で 魚が釣れだし、釣り場も空いたので一か所にまとまり釣 ることが出来ました。

魚は、アジ、サバ、カワハギ、グレ等が一人20匹以上の

釣果があり、カブスカウト全員とスタッフの方達が喜び ながら頑張って楽しんでおられました。

午後1時頃になったので実釣を終わりましたが、主催者 スタッフや同行された父母から魚拓をして欲しいとのこ とで、辻・南インストラクターが魚拓を作成しました。 カブスカウトや主催者父母から、楽しい釣り満喫するこ とが出来き、また、魚拓は子供との良い記念になると大

変喜ばれました。(報告 川嶋)







報告 10 今和4年ファミリー海釣り大会舞洲緑地C護岸開催に協力(R4-10/23)

毎年、大阪北港舞洲緑地C護岸で開催される、ファミ リー海釣り大会。釣り初心者指導と「釣り教室」「水質 調査」の実施を日本釣振興会大阪府支部から受けJOFI大 阪のインストラクター5名が参加協力。本日招待されて いる参加者は、児童24名と引率者4名の28名。招待者の 釣り場へ竿やリールとエサ、バケツ等を準備。

主催者挨拶でファミリー海釣り大会の開始。準備時に はアジやイワシが時たま釣れていましたが、招待者の子 供達が7時頃に到着し、ライフジャケットの着用と股ヒ モ等の確認後、釣り場へ移動し釣り開始、状況は良くな く余り釣れません。釣り開始から2時間程度経過の後、 木陰で一般参加者を含め釣り教室を開始。安全な釣りを するためのルールやマナー、安全確保「自分の命は自分 が守る」「海の救急は118番」。続いて、最近大阪湾で 良く釣れている危険な魚「アイゴ」の背鰭や腹鰭につい

ての説明。釣れた場合は、インストラクターやスタッフ に連絡し、鈎からの取り除きを依頼すること。続いて水 質調査の学習。インストラクターが、自前で作成した機 材を使用し、海水の酸素濃度や透明度などの水質調査を 実施、大阪湾の実態を知ってもらうと共に、魚がどのよ うな場所を好んで棲んでいるのかを解説。検寸開始の時 刻になり参加者が、釣れた最長の魚を提出。招待者の子 供達も釣れたイワシを各々提出し表彰式の発表を待つ。 表彰式では、魚種ごと入賞に賞状と持ちきれないほどの 記念品を贈呈、招待された児童も数人入賞、入賞者以外

にも参加賞なども 全員に配られ、楽 しく笑顔で1日を 送れました。

(報告 山本)



9市共済会合同親子釣り教室(R4-11/6)

釣り教室準備のためJOFI大阪インストラクターが7時 に集合、ライフジャケット・釣り用具を準備し参加者の 到着を待ちました。本日の釣り教室は、参加17名(内子 供8名)一般参加15名での教室となりました。

朝の挨拶の後ライフジャケットを着用し、小川インスト ラクタから危険な魚・安全な釣り方、ライフジャケット 必要性等を説明。各班ごとに釣り場へ移動、釣り初めに 仕掛けや釣り方の説明をし実釣の始まり。朝からアジや サバが入れ食い状態で釣り人は大忙し。約3時間の釣り でした。始めて魚を釣った子供達は、生きている魚を見 て大騒ぎ。魚を触ったことのない子供は、釣り初めには 触ることができませんでしたが釣り教室が終わるころに は魚に触れることができるようになり喜んでいました。 釣り教室に参加し、勉強になったと思います。今回の釣 り教室の参加者は、多い人では50~60匹が釣れ大変喜ん

でいただけた釣り教室となり







令和4年度日本ボーイスカウト大阪連盟かわち地区釣り章考査会(R4-11/20)

少し遅い開催となりましたが、座学を大阪府青少年 ヨットハウスの1階で、実釣を昨年と同様、淡輪漁港で、 受講者人数23名で実施しました。

日本ボーイスカウト大阪連盟かわち地区釣り章考査会 責任者の中西委員長となみはや地区野呂様と打合せを行 い開催日を決定。また、実施内容について例年実釣で行っ ているサビキ仕掛けによるアジやイワシ、サバ等狙いで はなく、根魚狙いに変更。実習は当日使用する同付仕掛 けの作成。ただしボーイスカウト達が虫エサを針に掛け ることが出来るのか等不明な所も。

今年のプログラムは、インストラクターの講習時間短 縮を図るため、座学担当2名と実釣担当5名に分けて実施。 ボーイスカウト側にも事前学習をしてもらうための教材 を受講者に配布してもらいました。

当日の講義担当は小川会員で、釣りの基本1「安全とルー ルマナー」から始まり基本2では「釣りの楽しさを知る」 や釣りの豆知識、ルアーフィッシング。ボーイスカウト

から依頼のあった釣り以外で魚を捕る方法等を説明し、 午後から実習で八の字結びや電車結び、鈎と糸の内掛け 結び、最後に本日使用する同付仕掛けの作成。

休憩時間後「理解度テスト」を行いました。60点未満の ボーイスカウトもおり、事前配布教材を見ながら再提出。 全員の合格を確認し実釣場所の淡輪漁港へ。駐車場でラ イフジャケツトの着用後危険な魚の復習し、釣り場へ。 日没時間が早く、17時まで釣りが可能か心配でしたが、 終了時間前に全員が2魚種を釣るという目的を達成。

閉会式での講評は「自分の作成した仕掛けで釣りを楽 しみながら、2魚種を全員が釣られたことを評価し、ま た、魚の命も私達の命も同じです、命の大切さを忘れな いように、これからも釣りを継続してください」と締め







報告 13 令和 4 年度「水辺環境保全活動」(R4-11/27)

北港・夢舞大橋北詰めで行われた「水辺環境保全活動」 に参加。主催は日本釣振興会大阪府支部、協力は日本釣 具協同組合やフィッシングエイト各釣具店等。

この場所は今年2回目の清掃活動ですが、常に多くの 釣り人が集う好釣り場で、その分大量の放置ゴミには毎 回考えさせられます。参加者ミーティング後、回収作業 を開始するも直ぐにゴミ袋は満杯状態。いつもと同様、 回収品は「ペットボトル」「コーヒやジュース等の空き 缶」「釣り具のサビキ仕掛け」「弁当容器」と多様、そ

れぞれ単体での放置が目立っています、これもコンビニ レジ袋有料化の影響なのか?。また、前回の回収ではBBQ 用カセットコンロ、ボンベや金網等多く見られましたが 今回は極少量なのが意外でした。駐車場入り口付近に設 置された飲料水自動販売機のゴミ箱が撤去されていまし たが、付近にはゴミ類の放置がゼロに近い状態に驚きま した。エリア全体を前回と比較するとゴミの量は少ない 感じで、釣り人の美意識向上なのか?清掃作業も短時間 で終了となりました。(報告 塩見)

公認釣りインストラクター講習会をヒューマンアカデ ミー大阪心斎橋校で12月11日に開催しました。19名の受 講申し込みがありましたが1名が体調不良で欠席し18名 で実施。受付開始の9時から受講生の検温、手消毒を実 施し、マスク着用を確認後会場へ誘導。

9時半になり本講習会のガイダンスをJOFI大阪事務局次 長室井氏が解説。その後、主催団体の社団法人日本釣り 団体協議会綿井専務理事の開催の挨拶に続き、JOFI奈良 県代表の窪氏、大阪府は物部事務局長からそれぞれ本年 度の取り組み状況、釣り文化の継承や自然保護活動につ いて説明。本試験合格後は各都道府県のJOFIへの加入い ただけるよう依頼。

9時45分から水産庁沿岸遊漁室釣人専門官小山様から 「釣り人に関連する法規」として80分の講義。休憩後JO FI大阪北支部小川副支部長のインストラクター心得「釣 りの文化継承と釣り指導の心得」等を70分の授業、釣り 人への指導方法や釣り文化、マイクロプラスチックによ る海洋汚染問題を盛り込んだ授業が行われ、昼食休憩と

なりました。

午後からの試験や論文、面接について、小川大阪北副 支部長が説明し試験の開始。試験については30分を経過 後退席可能で多くの方が退席されましたが、持ち時間いっ ぱい問題に思考されている受講生も。休憩をはさみ論文 の開始。議題に対して試験と同じく60分一杯の時間をか けて、自分の釣りに取り組む思いを用紙一杯に書かれて いました。最後の実技を含む面接試験は、遠方者の帰宅 時間を考慮し、面接官を3組6名で実施、綿井専務理事と 南大阪中央副支部長、辻大阪監事と髙木大阪事業部長、 窪JOFI奈良代表と塩見大阪南副支部長が行い、時々受講 生と釣り談議に笑顔を交わしながら、時間をかけ丁寧な 面接が実施されました。 (報告 物部)





釣り場の巡視と初心者指導を受託 報告 15 コスモスクエア海浜緑地

大阪湾臨港緑地公園等では、近隣住民の方達から釣り 人に対して、ゴミの放置、一般公園と隣接している禁止 区域での釣りが危険など、苦情が多く寄せられていまし た。特にコスモスクエア海浜緑地やかもめ大橋、中央突 堤臨海緑地等では釣り人のゴミ放置、釣り禁止区域での 釣り。軽犯罪法違反により検挙されている事例もあり、 港湾局も監視員の巡回を実施されていました。

令和4年1月には、ABCテレビの報道番組で大阪湾臨港 緑地公園等の現状と問題提起の放映があり、放映の中で マイクを向けられた一部の釣り人の言葉に唖然としまし た。放置ゴミや釣り禁止区域でに釣り等がなくなるよう に、令和4年2月に日本釣振興会大阪府支部から巡回指導 と調査の依頼がJOFI大阪にあり、4月1日に委託契約を締 結。釣り解放区内と解放区域以外での釣り人の調査とリー フレットの配布「南港コスモスクエア海浜緑地で釣りを

楽しまれる方へ」や、資源保護を目的とした「小型魚再 放流のお願い」等。

釣りのルールやマナーの徹底、自分のゴミの持ち帰り、 ライフジャケット着用の重要性を説明。併せて解放区内 での初心者指導を月1~2回程度実施。

本契約締結後の4~5月は3~4名体制で実施し、巡視内容 等を体験、8月以降は1~2名体制で展開。

結果は、契約前の2月から契約後を含め合計18回(協力 者数40名)で令和4年を終わりました。





